

臨床研究に関するお知らせ

熊本大学病院呼吸器内科で行われている「多施設共同 一般健診者における高分解能 CT 所見上 Interstitial Lung Abnormality (ILA)と進行性線維性間質性肺炎の関連についての疫学および観察レジストリー研究」に参加された患者様へ

熊本大学病院呼吸器内科では、以下の多施設共同研究に参加しております。ここにご案内するのは、過去の検査データ（胸部 CT データ）を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用させて頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合や ご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究の名称

呼吸器疾患の胸部 CT 画像解析：多施設共同研究

2. 研究責任者

京都大学大学院医学研究科 呼吸不全先進医療講座 特定准教授 半田 知宏

3. 研究の目的

呼吸器疾患において、病気の早期発見と早期治療、病気の重症度の把握やその後の経過の予測のため、胸部 CT 画像の所見を定量的に評価することが重要です。たとえば、慢性に線維化が進行する肺疾患である間質性肺疾患において、胸部 CT における病気の広がりが病気の重症度や経過と関連する事が知られています。

これまで CT における陰影の広がりを目視で行われることが一般的でしたが、評価者によってばらつきがあることなどが問題でした。京都大学と富士フィルムが共同で開発した間質性肺疾患の画像定量化システム（artificial intelligence based quantitative CT technology:AIQCT）によって様々な肺の陰影が自動で評価可能となり、今後診療の現場での検証が求められています。

また、胸部 CT には骨や筋肉の画像が含まれており、骨密度や筋肉量、質などを評価する事が可能です。この研究は、呼吸器疾患の胸部 CT 画像を解析し、間質性肺疾患をはじめとする様々な呼吸器疾患を対象として肺、血管、筋肉、骨などの情報を収集し、CT の所見と病気の重症度や症状、経過との関係を明らかにする事を目的とした多施設共同研究です。

4. 研究の概要

(1)研究期間：倫理審査委員会の承認日から2026年10月31日です。

(2)対象となる患者様は、「多施設共同 一般健診者における高分解能CT所見上 Interstitial Lung Abnormality (ILA)と進行性線維性間質性肺炎の関連についての疫学および観察レジストリー研究」に参加された患者様です。

(3)方法

本研究は、共同研究機関として全国から9施設が参加しております。AIQCTを用いて胸部CT画像データの解析を行い、呼吸器疾患の肺画像指標や骨密度、筋肉量と病気の重症度、経過の関係について検討します。

本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部附属病院および共同研究機関において、すでに倫理審査委員会の審査、ならびに研究機関の長の許可を受けたうえで、実施されています。

5. 個人情報の取り扱い

利用する情報は、患者さんを特定できる個人情報を削除し匿名化された状態で解析を行います。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。また、提供された臨床情報は、研究終了時に破棄されます。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

熊本市中央区本荘 1-1-1

熊本大学病院呼吸器内科 担当医師 一安秀範

TEL: 096-373-5012

E-mail : kokyukinaika@kumamoto-u.ac.jp